和歌山で変化してきた私

張羽
交換留学生　中国

変化というのは、蛹から羽化するように、美しい蝶が生まれ変わったり、桑田変じて滄海となったりしたことをいうのでしょう。あるいは、大豆は納豆菌を付けて発酵して納豆になるのも変化です。我々は粒々の大豆のように、周囲の環境に影響され、納豆になるように生きています。私も一粒の小さな大豆としてこの和歌山というところでだんだん変化しています。

和歌山に来てから、色々な初めての体験がありました。初めての一人暮らしでは、自分で料理を作ったり、掃除をしたり、家計簿をつけたりしました。そして、初めてバイトを始めました。後片付けからお客様の注文まで様々な仕事を店員さんが私に詳しく教えてくれました。初めて外国人と友達になり、会館で各国の方と知り合いになって、一緒にパーティーをしたり、ゲームをしたりして、自分の国の文化をお互いに学び合い、交流しています。私の日本の生活はだんだん豊かになってきました。

中国にいた時、私はもう大学生なのに、毎日母親に電話をかけ、いつも学校生活の悩みや文句を言ってばかりで、困難に遭えばすぐ諦めたくなってしまいました。そんなわがままな私はまるで子どものようでした。しかし、和歌山に来てから、たぶん一人暮らしのおかげで、だんだん自立、強固、勇敢さを身につけるようになってきました。そして、母親と電話することも昔より回数は少なくなり、母を心配させないように、嘘をつき始めました。時々病気になったのに自分は元気だと教えて、機嫌が悪かったのに一日嬉しく過ごしたよと言うなど、向こうの私を心配している母親がそれを聞くと、安心したように笑ってくれました。このようなことは、大人になる過程で経験することだと思っています。

日本に来て一番知りたいのは日本人がどのように生活しているのかということです。ここの車が歩行者に道を譲り、バスに乗る人が座席に座る前に隣に座っている人に軽く会釈し、スーパーの通路でお互いに道を譲る時も丁寧に会釈します。人々はいつも「こんにちは」や「すみません」、「ありがとうございます」などの言葉を口にし、女性が笑う時手で口を隠し、男性は毎日真っ白なワイシャツを着て仕事に奔走しています。その相手に配慮する丁寧さがだんだん理解できてきました。それは自分の国では全然経験できないことだと思います。私は、この国の人を真似することにしました。時々本当に日本人と間違われることも面白く感じています。

行儀を真似るだけでなく、言葉の真似もしてみました。和歌山大学の学生たちと話して

いる時、皆が使っていた言葉は教科書とは異なり、時々全然分からないです。スマホでチャットしている時の彼らの口ぶりを真似してきましたが、他の友人に私の言葉が男っぽいとからかわれてしまいました。その後日本語の男女用語の重要性に注意させられました。ともかく、ここに来て教科書から習えない関西弁と和歌山弁が学べることに、私はすごく満足しています。

最も感動したのは、和歌山の人人です。私が母の日に母親にプレゼントを贈りたいと困っていた時、配達員のＹさんが手続きの方法を教えてくれたり、子供の日にアルバイトをしている店の店員さんが私たちに柏餅と烏龍茶をくれたり、見知らぬ人さえ私たちが道に迷った時に助けてくれました。みんなはいつも優しくて親切で毎日微笑んでいるので、私は心の底から和歌山人の温かい気持ちを感じています。

和歌山で私は変化してきました。ここでいろいろな書籍と旅行の中で体験できないことを経験させてもらいました。そのおかげで、自分の国から海外まで視野が開け、自分の立場もただの留学生から中国人の代表であると認識することができました。私も中国人の代表の一人として海外に来て、自分の言行に注意してよい印象を作ろうとして努力しています。

振り返って見れば、人間は砂浜にある砂でしょう。我々はちっぽけなばかりでなく数が多いです。命運の風で和歌山に吹き飛ばされて、ここの人々と一年間付き合うご縁は、私の生涯の中の幸いではないでしょうか。「一期一会」というものを私は今もっと深く理解できるようになってきました。

和歌山で変化してきた私は知らず知らずのうちに謙虚で穏やかになってきました。それは和歌山の人々、和歌山の大学、和歌山というところのおかげで、いつもここで楽しい毎日を送れるようになったからです。